人間はミツバチのように生きられるのだろうか

深大寺養蜂園　杉沼えりかさん
Tel：080-6731-6664（直通）

人・まち・風

◆昨年から続く新型コロナウイルスによって私たちの暮らしは大きく変わりました。人間社会は大きな不安の中で焦る日々を送っていますが、私のパートナーともいうべきミツバチ達は毎日懸命に働き、いつものミツバチらしく生きています。何年もミツバチを見てきて、彼女たち（※集団で生きるミツバチの群れのおよそ90%はメスです）の判断力に今まで何度も驚かされてきました。

◆昨年、暖かい数日間から一変し、いきなり積もるほどの雪が降った日がありました。ミツバチはきっと驚いたことでしょう。翌朝、オス蜂だけを容赦なく巣から追い出していました。

◆ミツバチの生態を簡単にお伝えすると、ミツバチは集団でしか生きられず、群れの大半はメス。巣の中では掃除、子育て、蜜を吸いに飛んで行き、蜂蜜をつくるのもメスの仕事です。

◆一方、オス蜂の仕事は究極を言ってしまうと「交尾」のみ。オス蜂はミツバチが存続していく上で大切な存在ですが、『緊急事態』になった時、メスはただちにオスを巣から追い出すという判断を下しました。

◆容赦ない厳しい判断ですが、ミツバチは「個」ではなく「群」でないと生きていけません。「群」として生きていくためにそのような判断をし、迅速に実行しました。そんな様子と日本の「スピード感」や「判断力」を見つめ、色々と思うことがありました。皆さんはどう思われますか？

◆長くなってしまいました。また、紹介が遅れましたが、私は調布の深大寺で蜂飼いをしている杉沼と申します。“何も足さない何も引かない”100%天然の本物のはちみつを生産しています。機会がありましたらぜひ一度お試しくださいね。

リピーター率No.1の「ゆりの木」の蜂蜜。4000円。

愛情を込めてミツバチをお世話しています。

保護者アンケート報告

ご協力ありがとうございました！

一斉休校から一年。その後もコロナは子どもたちの生活に影響を与え続けています。アンケートでは、「運動場で体を動かす、友だちとおしゃべりする、放課後に遊ぶなどの機会が減った」「イベントがなくなり気落ちしている」「土曜授業が多く疲れている」「ストレスが増え、トラブルも増加」などの切実な声とともに子どもの心のケアを求める声が多数上がりました。

ICT活用

全体として肯定的な回答が多く見られ、特に一斉休校時の活用に期待が集まっています。また、これからのIT社会への適応力がつく、学びをより深められる、不登校など色々な環境の子どもにも活用できる、ペーパーレス化や荷物の軽減につながるというメリットが挙げられました。一方、視力の低下や運動不足など身体への影響を懸念する意見の他、集団生活やコミュニケーションの機会は補完できない、受動的になる、教員やサポートする大人によるバラつきが出るといった課題への指摘もありました。長短ありますが、活用の仕方によっては新教育指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」への効果が期待されます。一方で、先生たちの働き方改革や電磁波の影響も忘れてはいけません。

PTA

必要な側面はあるものの、今の形では負担や無駄が多いという意見が多数寄せられました。私自身、コロナ禍の一年、保護者同士の対話や意見集約、学校との対話といったPTAの役割についても考えさせられました。子どもの切実な声を学校に届けるためにも、保護者が主体的、対話的なPTAのあり方を模索する時が来ていると考えます。（分析 木下）

● ひとこと提案　いつでも募集中！ ●

生活の中で気づいた課題を電話・FAX・メール・郵送でお寄せください。解決策を一緒に考えましょう！

●メール：waku2seikatusha@mpd.biglobe.ne.jp
●住所：〒182-0022 調布市国領町 8-1-13
●電話 /FAX：042(487)3087
●オンラインフォーム ⇒⇒⇒

調布・生活者ネットワークのメンバーになりませんか？

メンバーの素朴な声をもとに
研究、調査を立ち上げ、
ネット議員を通して政策提案をしたり
一般質問に繋げたりします。
楽しいですよ！